

No.15 号 ひらつかの風

2020年7月号
(令和2年)

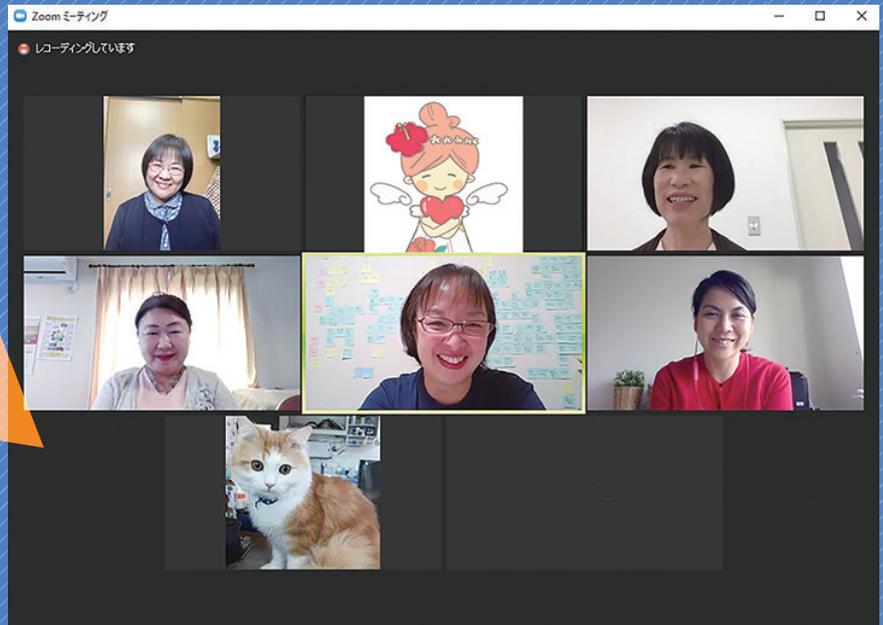
ひらつか市民活動センターは、さまざまな分野の市民活動団体やボランティアなどで活動されている人たちが、これから活動しようとしている人たちを応援します。

CONTENTS

- P.1 ……………市民活動センター施設利用の再開について
- P.2・P.3……………センター報告『コロナ禍における市民活動団体 オンライン座談会』
- P.3……………お役立ち情報
- P.4……………センター情報

センター
レポート

『コロナ禍における市民活動団体 オンライン座談会』



センター情報

市民活動センター施設利用を再開しました!

新型コロナウイルス感染防止のため、長期にわたりご不便をお掛けしておりましたが、6月16日(火)よりセンターのご利用を再開いたしました。

- 当面の間、会議室やミーティングスペースについては次の定員でのご利用とさせていただきます。何卒ご理解いただきますようお願い申し上げます。

- 会議室 A : 16名以下 (定員 32名)
- 会議室 B : 16名以下 (定員 32名)
- 会議室 C : 12名以下 (定員 24名)
- ミーティングスペース丸テーブル : 3名以下 (定員 6名)
- ミーティングスペース長テーブル : 4名以下 (定員 8名)
- ※状況に応じて変更する場合がありますので、適宜ご確認ください。



- 「感染症対策チェックリスト」のご記入・ご提出をお願いします。センター窓口にてお渡しいたします。
- 不特定多数を対象としたイベントは、感染予防の徹底のため8月末までは不可とさせていただきます。

『コロナ禍における市民活動団体 オンライン座談会』

国内で2月末より広がり始めた新型コロナウイルス感染症は、世界を震撼させる“大災害”となり、NPOをはじめとする市民活動団体も大きな影響を受けています。そのような状況下でも、それぞれのビジョンや目的に向かって精力的に活動している5つの団体さんに、活動における工夫やコロナ後の社会についてお話しいただきました。

Q 自粛期間中の活動で、一番大変だったことは？

●大野さん

子どもたちの学びの場が寺子屋ではなく、オンラインになったことです。子どもたちがスマートフォンを自分で持っているかどうか、ネット接続の環境があるか、学習支援員さんがオンラインに慣れているかによって、学習の環境に大きな差ができました。子どもたちの反応ですが、自分の家でのオンライン学習も、集中できてよかったという声もあり、大変だった半面、子どもたちが自ら学ぼうとしている力を持っているという嬉しい発見がありました。

●山田さん

花は生き物なので、外でバラの手入れ作業をしないといけないです。メンバーが高齢者なので、外での作業でも感染するのではないかと心配がありました。活動せざるを得なかったです。また、総会を開けなくて困りました。

●宇佐美さん

4月に、平塚市内の商業施設で、子育て中のお母さんたちのグループによるイベントを企画していました。感染状況により、施設側の予定が3月末まで分らず、出展するお母さんたちの予定を確保していくのが大変でした。また、施設側との連絡調整も大変でした。



平塚駅南口前広場から花いっぱい美しい景観づくりを行う「平塚花のまちづくりの会」の山田美智子さん。

●堤さん

緊急事態宣言により人に会うことを制限するよう求められましたが、子ども食堂では一度に集まる人数を減らしたり、家に料理を持ち帰って食べてもらう等の工夫をして開催しました。

●赤松さん

対面での一对一のカウンセリングができなかったことです。オンラインでのカウンセリングをしたくても、全員がオンラインに対応できませんでした。オンラインを使うのが苦手だという当事者の方ほど、必要な支援を届けるのが難しかったです。



小中学生を対象に無償で学習支援を行っている「子ども学習支援グループ須賀の寺子屋」の大野文さん。

Q アフターコロナはどんな社会？

●大野さん

どうい社会になるのか、漠然としています。人と人の距離が今までより開くという不安がありますし、子どもたちの置かれた環境の違いが、個人個人の学力の違いにつながってしまいそうなのも心配です。

●山田さん

感染の恐れがある屋内の部屋では集まりにくくなりそうですね。オンラインを十分に使えない高齢者たちはどうなるのかなと、心配になります。ただ、外にテントを張って、そこで集まるというのでもいいかなとは思いますが。



子どもを対象に農業体験、学習支援、朝ごはん子ども食堂等を行う「NPO法人未来経験プロジェクト」の堤園子さん。



●宇佐美さん

家にいながら、オンラインでできる仕事が出てくるので、働くお母さんにとってはやさしい社会になると思います。でも、「みんなと同じ」というのは通用しなくなり、同じことができなくなるという不安はあります。グループごとにどのように支援していくのか、変えていく必要が出てきそうです。

●堤さん

アフターコロナというより、ウィズコロナだと思います。どれだけそれぞれの考え方の違いを認め合えるかが大事になると思います。

●赤松さん

想像もつかないです。明確なものが報道の中では見えてきません。どれをどこから手をつけていくのか分からないです。

Q 市民活動において今後の変化、今後の活動の体制はどうですか？

●大野さん
子どもたちの学びの機会が同じであることを目指していたのが、違いが出て来そうです。そうした違いを踏まえて、いろいろな考え方、いろいろな発想で、寺子屋がそれぞれの個性を生かした受け皿になって、学習支援をしたいです。

●山田さん
平塚はバラの生産が盛んなので、市内のバラの産地をつなげたまちづくりを目指したいです。また、団体同士が励まし合い、連携し、知恵を出し合ったりしたいので、市民活動センターにはぜひ要となって応援して欲しいですね。

●宇佐美さん
市内にはいろいろな市民活動団体があることを知らない人が多いです。子どもたちがたくさんの人や活動に出会えるよう、皆さんと、横のつながりをより太いパイプにしたいです。



平塚大磯を中心に、湘南のママの出会いとつながりをサポートする「ママぎゅっと」の宇佐美陽子さん。



被害当事者が地域とつながり「孤立」を防止し、安心して過ごせる「居場所」づくりを行う「一般社団法人 OHANA」赤松未来さん。

●堤さん
子どもたちに対して未来を変えられるということを示していきたいです。今までの経済の仕組みが変わったわけですが、何もできないと思っていた人ほど、逆にチャンスではないでしょうか。

●赤松さん
当事者の方が就労経験をして安心して社会復帰を目指すような活動をしようとしていた矢先に、コロナ禍になりました。今後は、孤立防止を含めて外に出られる支援の体制をつくりたいです。

.....
<最後に>
「With コロナ、After コロナ、新しい生活様式の下に、これまでのつながりや活動の仕方が変わっていくと思いますが、どんな状況であっても未来に希望が持てる社会でありたい、私たちにはその役割がある、だからこそ今後も横のつながりを大事にしていきたいですね。」
最後はこのような言葉で締めくくられ、市民活動の底力を改めて感じ、勇気づけられた座談会となりました。

お役立ち情報

新型コロナウイルス感染症の完全収束がなかなか見通せない状況です。ご自身や団体の状況に合ったコミュニケーションを考えてみてはいかがでしょうか。

1 オンラインツールを積極的に



オンラインツールは、遠くにいる人と顔を見て話したい、集まるためにわざわざ出かけないで打合せをしたいという時などに便利です。一般的には、LINE、ZOOM、Google Meet、Skype などがあります。使い方をマスターして、オンラインでのつながりを楽しんでみましょう。

2 電話や手紙も活用を



パソコンなどを使えない、器具がそろわないという方は、電話や手紙で情報交換がお勧めです。事務連絡にほんの数分、雑談をプラスするだけで、お互いの気持ちが晴れたり、相手の状況がつかめたりします。また、手紙で、近況報告の文を添えてみるというのもよいかもしれません。

3 公園や広場など外で集まる



直接会って話したい、オンラインでは疲れるというときはどうするか。天気の良い日に、外で集まるという団体さんもいます。平塚市内には、緑豊かな公園、海岸、河川敷などがあります。対面を避けて、横並びで座りながら話し合うのもよいでしょう。

センター情報

● 団体活動にお役立てください!

1 事務用品をご提供いただきました

平塚市内在住の方より、市民活動に尽力されている団体さんにお使いいただきたく、クリップ、ファイル、定規など、たくさんの事務用品をご寄贈くださいました。ひらつか市民活動センターのミーティングスペースのテーブルにてご覧いただけます。

ご希望の方は、センターの窓口のスタッフまでお申し出ください。



2 マスク 1,000 枚をご寄贈いただきました

6月上旬、株式会社 JAPAN IMEX 代表取締役の小野利隆様より、マスク 11,000 枚を平塚市役所にご寄贈いただき、うち1,000 枚をひらつか市民活動センター分として、いただきました。

センターご利用の際マスクをお忘れになった場合は、スタッフまでお申し出ください。



3 ポリ袋簡易防護服の作り方紹介

新型コロナウイルス感染症拡大以降、医療・福祉の現場で、防護服が不足しています。こうした中、女性防災クラブ平塚パワーズさんより、45ℓと70ℓのごみ袋を活用した、簡易防護服の作り方をご紹介いただきました。センター内にて、お預かりした見本を展示し、作り方のチラシをお配りしております。ぜひ、ご活用ください。



Point! 「新しい生活様式」における熱中症予防のポイント

新型コロナウイルス感染予防のため、身体的距離の確保・マスク着用・小まめな手洗いなど3つの密対策をはじめとする「新しい生活様式」の実践が求められています。

これからの暑い季節は、熱中症予防も重要になってきますので、ポイントを知り、暑さを上手に乗り切りましょう。

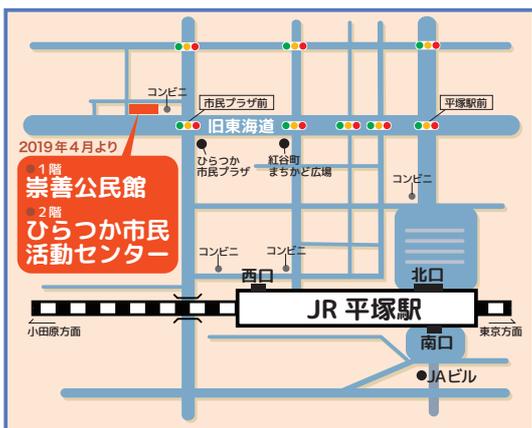


- ①暑さを避ける…涼しい服装にするなど工夫を。エアコン使用時は換気も忘れずに。
- ②適宜マスクを外す…屋外で人との間に十分な距離(2m以上)が確保できる場合は外しましょう。
- ③小まめな水分補給…水分補給はのどが渇く前に。1日あたり1.2ℓが目安です。
- ④日頃の健康管理…毎朝の体温測定なども忘れずに。
- ⑤暑さに備えた体作り…暑くなり始める前に「少しきつめ」の運動を毎日30分程度。

(広報ひらつか6月第3金曜日号より)

編集後記

ひらつかの風15号団体レポートは、コロナ禍の中でも、目の前の「困った」を何とかしたいとチャレンジする団体さんに、その現状とこれからの未来について語っていただきました。紙面の都合で全部紹介しきれないのが残念ですが、平塚の市民活動の魅力を再確認でき、とても有意義でした。市民活動を「すきま産業」と例えることがありますが、行政でも企業でもできない、「市民ならではの発想とあつい思い」を持った活動は、きっとこれからも市民の味方となって「まち」を支えていてくれると思います。(坂田)



編集・発行

ひらつか市民活動センター

(開館時間 9:00~22:00 年末年始、施設点検日を除く)

〒254-0045
 神奈川県平塚市見附町 1-8
 TEL ● 0463-31-7571 FAX ● 0463-35-6601
 Eメール ● info@hiratsuka-shimin.net
 URL ● http://hiratsuka-shimin.net

センター登録団体数 (2020年6月15日現在)
 登録団体数 ● 479 団体

(内訳 市民活動団体…339 団体、一般団体…140 団体)

